

観客におけるフィクションの必要性

宮下寛司

慶應義塾大学大学院文学研究科独文学専攻後期
博士課程

この発表では現代のドイツ語圏における舞踊学研究において近年とみに重視されるようになったフィクション(Fiktion, Fiktionalisierung)の重要性について論じる。この概念は、現実と対置される虚構的な要素を意味するだけでなく、舞踊上演における受容行為を探求する際においてこそ必然的に生じる虚構性を意味する。それは舞踊美学の対象には確たる根拠がないことを認めることである。それゆえに方法論を決定する時点から批判的検討が必要とされる。ドイツ語圏の舞踊研究はこの虚構性を現代舞踊における基礎的概念とみなし、現代において複雑化し多様化する舞踊作品に対して柔軟に対応している。

現代のドイツ語圏における舞踊学においては美学の観点、すなわち作品と観客における相互作用の特殊性が中心的に論じられている。こうした方法論は、ヘルムート・プレーブストやガブリエル・ブラットシュテッターなどによって 90 年代以降のダンスを論じる必要性から開始されている。さらに英語圏の舞踊学者でアンドレ・レベッキやマーク・フランコらとの学的交流によって議論が国際的に展開した。そうした一連の成果としてゲラルト・ジークムントの『不在』を挙げることができるだろう。90 年代以降のダンスに対していかなる呼称を用いるかについての議論が(代表的な例としてコンセプト・ダンスなど)盛んであったことから分かるように、旧来的なダンス美学では把握できなくなった。ドイツ語圏の研究はそこで、モダンダンスを経てポストモダンダンスから生じた舞踊の「メディア的特性(media specificity)」が通用しなくなったしたことを指摘し理論化してきた。こうしたメディア的特性への批判的意識が現代のドイツ語圏の舞踊学を支える大きな理論的基礎である。同時に舞踊美学の対象は発表された「作品」であることが多く、あくまで芸術学的立場に立脚する。そしてそれはまた、アメリカにおけるポストモダンダンスを基礎とした舞踊美学と大きく異なるといえるだろう。また、コンスタンツェ・シェローが学説史をまとめたときに強調したように、現代ドイツ語圏の舞踊学のディスクールは常に「不在」や「欠如」をめぐる。彼女は以下のようにその共通点を見出している。舞踊美学の対象である舞踊とは安定的な対象ではない。これは学的分析の対象をいかにして論じるかについて、決定的な根拠がないということ

である。個々の作品自体を論じるためには、ダンサー個人の制作過程や、スタイルなどの歴史的な位置づけといった外的コンテクストでは不十分であり、一方で決定的に論じるための方法論が確立していないのである。それゆえに現代舞踊を論じるためには、舞踊と舞踊学への批判的言及が必要になる。なぜならば、現代の舞踊が近代的なメディア的特性に対して批評を加えることで成立するならば、美学もまたそれを支える言説に対して批判的な距離を取らねばならないからだ。したがって、舞踊の近代的装置性への批判それ自体が現代舞踊の特徴であるならば、それを機能させる受容と検討が問題となる。現代舞踊においては、コードの解説や舞踊家の発したい主題を読み解くのでは不十分である。社会的・文化的・舞踊美学的な言説を批判的にめぐるために、その批判的姿勢は常に観客の視線へ委ねられている。観客の視線の強調は個々の恣意的な鑑賞を許すのではなく、自己が常に置かれている一定の言説的領域を前提として視線が構築されていることを気づかせることである。視線は舞踊家と観客の間に距離を作り出すのである。

ジークムントやボヤーナ・ツヴェイチが指摘するように視線は演劇的構造を作り出す。ただし観客の批判的主体を作り出す場としての「演劇」であり、スペクタクル性を強調するものではない。ジュディス・バトラーはこうした演劇性を「批評(Critique)」の定義として必要不可欠であるとしている。彼女によれば、批評とは本来、対象への外部からのコメントではなく、批判する自己の根拠をも批判し続けその基盤を失わせるものである。こうしたポスト基礎づけの方向は、批評のフィクション化を伴う。本発表におけるフィクションとは、こうした徹底された批評性としてのフィクションを現代ドイツ語圏の舞踊学において中心的な役割を果たしていることを示す。また批評性とは舞踊制作あるいは鑑賞において禁欲的な態度を示すのではなく、むしろそれらの欲望へと結びついていることに留意したい。現在日本において必ずしも積極的に紹介されることのなかった現代ドイツ語圏の研究を紹介し、かつ発展的可能性を論じたい。

本発表ではそのために、「フィクション」概念を田辺知美・川口隆夫の作品「シック・ダンサー」を用いて具体的に論じたい。ドイツ語圏の舞踊学が対象とする舞踊作品は確かに非常にコンセプチュアルであり、日本の舞踊との接点を見出しづらいが、ある程度の共通点は見出すことができ、かつ差異も見出すことができるだろう。